

博士論文の審査結果の要旨

| 専攻 | 保健医療学専攻 | 分野 | 先進的ケア・ネットワーク 開発研究分野 |
|--|---|-------|------------------------|
| 学籍番号 | 15S3021 | 院生氏名 | 黒川佳子 |
| 通学キャンパス | 東京青山キャンパス | | |
| 論文題目 | 急性期病棟の看護師が実施する高齢肺炎患者の 排泄自立ケアの実態と看護支援のあり方 | | |
| 審査結果(枠で囲む) | 合格 | | 不合格 |
| <p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究概要および研究方法</p> <p>本研究は、急性期病棟で実施されている高齢肺炎患者の排泄自立ケアの実態と看護支援のあり方の示唆を得ることを目的としたものである。研究1はDPC対象病院23施設に勤務する呼吸器内科病棟の看護師705名を対象にしたアンケート調査を行った。排泄自立ケアの実施は52.8%を占め、排泄用具切替の判断基準をもっているものは「経験年数」が有意に長かった。研究2は呼吸器内科病棟に勤務する看護師17名を対象に半構造化面接を行なった。「自立支援の認識」として43のコード、15のサブカテゴリ、9のカテゴリに分類された。急性期病棟で排泄ケアを実施するための看護支援のあり方として、看護師への継続教育の必要性や病棟全体で統一したケア実践にむけた方策を考えていく必要性が示唆された。本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会の審査にて承認(研究1:16-Ig1-18, 研究2:16-Ig1-143)を得て実施された。</p> <p>2) 研究の新規性と価値</p> <p>本研究の新規性は、退院時に排泄自立がなされていることは早期の在宅復帰を行う要因であると位置づけ、急性期病棟に勤務する看護師を対象に業務実態の明らかにしたことである。高齢肺炎患者に排泄自立ケアを実施するための看護支援のあり方を明らかにしたことは、看護領域および介護領域のレベルの向上に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>審査会は2回開催し、初回審査において論文の構成、方法と結果・考察の整合性、統計分析結果の記載内容、誤字脱字等について論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>平成29年12月5日、東京青山キャンパスと大田原キャンパスの遠隔接続を行い、本研究の意義および調査結果に関する口頭試問に対し適切に応答した。</p> <p>4. 合否の結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(介護福祉・ケアマネジメント学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p> | | | |
| 論文審査担当者 | 主査 | 山本 康弘 | |
| | 副査 | 糸井 裕子 | |
| | 副査 | 谷 浩明 | |